

平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	117人	国語B	117人
② 算数A	117人	算数B	117人
③ 理科	117人		

5 留意事項

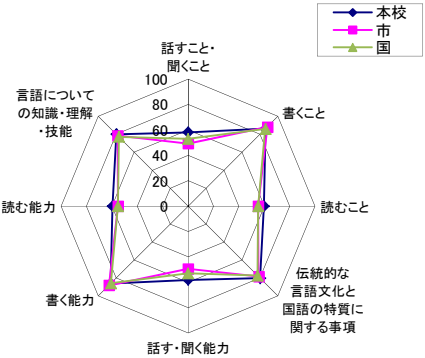
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

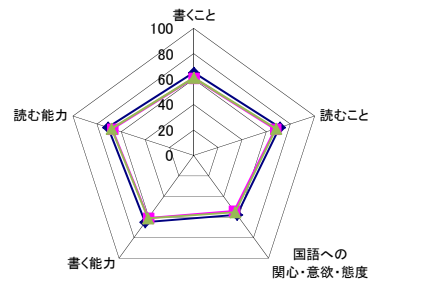
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	58.1	49.3	53.0
	書くこと	86.3	88.2	86.0
	読むこと	59.6	55.2	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	80.1	78.5	77.2
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	58.1	49.3	53.0
	書く能力	86.3	88.2	86.0
	読む能力	59.6	55.2	55.2
	言語についての知識・理解・技能	80.1	78.5	77.2



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	65.0	60.9	61.1
	読むこと	71.1	67.4	68.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	57.9	54.0	55.4
	話す・聞く能力			
	書く能力	65.0	60.9	61.1
	読む能力	71.1	67.4	68.1
	言語についての知識・理解・技能			



★国語に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○国語の授業が好きである児童が69.5%、国語で資料を読み自分の考えを話したり聞いたりしていると答える児童が77.9%、意見発表でうまく伝えるように話の組み立てを工夫している児童が66.4%、自分の考えを書くとき理由がわかるように気をつけて書くと答えた児童が78.9%、文章の読みでまともりごとの内容を理解して読むと答えた児童が82.2%と平均を上回っている。国語の学習に、理解する・伝えることを意識して取り組んでいることがわかる。
●平均を下回った項目は、「読書は好きですか。」の69.5%であった。「調査問題の解答時間は十分でしたか。(国語A)」が、79.7%で市の平均を5.9%下回り、国の平均を3.6%下回っている。多くの本に触れる機会を設け、読書の習慣化を図りたい。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

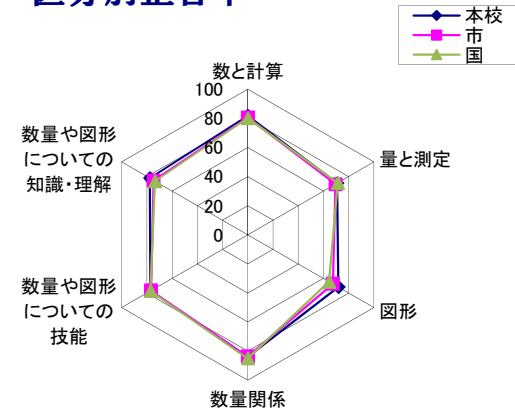
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○Aの平均正答率は、国平均より5.1ポイント、市平均より8.8ポイント高い。 ●正答率は全国・市よりは高いが、60%に満たない。話の内容に対する聞き方を工夫することに課題があり、特に提案の内容と自分たちの様子を重ね合わせて聞くことが十分ではない。	・日頃から、聞くことの学習を意図的・計画的に設定して指導する。特に、聞き方のポイント(理由に着目して・提案の内容と自分たちの様子とを重ね合わせて・提案の効果や妥当性を判断しながら等)を意識させながら聞く機会を繰り返し設けていく。
書くこと	●Aの平均正答率は、国平均とはほぼ同程度であるが、市平均よりは1.9ポイント低い。 ○Bの平均正答率は、国平均より3.9ポイント、市平均より4.1ポイント高い。 ●インタビューの内容や様子などの情報をまとめて記事を書く設問の正答率が33.3%と低い。目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くことに課題がある。	・事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて伝えたい内容が十分に伝わるように、複数の内容を整理して書くことができるような指導が必要である。国語科だけでなく、他教科・領域の中でも、インタビューした相手の話した言葉や様子などを取り上げたり、写真資料等から活動の様子を読み取ったり、参加者の意見や感想を参考にしたりして文章を書く活動を設け、書く力の伸長を図りたい。
読むこと	○Aの平均正答率は、国・市いずれの平均よりも4.4ポイント高い。 ○Bの平均正答率は、国平均より3.0ポイント、市平均より3.7ポイント高い。 ●コラムの中で筆者が引用している言葉を書きぬく設問の正答率が18.8%と低い。「引用」の必要性や効果について理解することに課題がある。	・文章の内容を正しく読んだり、登場人物の心情などを読み取ったりするには、言葉の意味を正しく理解し、文章を読んでいくことが大切である。読書指導を含め、様々な文章を読む機会を作り、読解力の向上を図りたい。 ・「引用」については、かぎ(「」)で括ることなど引用の仕方を指導するとともに、引用する目的意識や必要性を十分にもてるような言語活動を位置づけ、定着を図りたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○Aの平均正答率は、国平均より2.9ポイント、市平均より1.6ポイント高い。 ●漢字の書きは、読みと比べると正答率が低く、特に「浴びる」という漢字の書きの正答率は50.4%と低い。漢字を書く力の定着に課題があると見える。 ●文の適切な主語を選択する問題では、正答率が54.7%と低い。文の中における主語をとらえることに課題がある。	・漢字の書きについては、日常的な反復練習を継続して行うとともに、既習の漢字を使う習慣を身に付けるよう指導していく。 ・文の構造をいろいろな観点で分類するような活動を通して、文の中の語句の役割や語句相互の関係をとらえることができるように指導する。

宇都宮市立豊郷中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

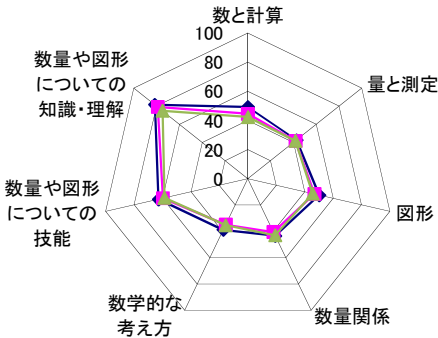
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	81.7	80.7	80.1
	量と測定	70.9	69.6	71.3
	図形	71.8	67.4	64.5
	数量関係	83.8	83.7	84.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	77.2	76.8	77.2
	数量や図形についての知識・理解	77.7	74.8	73.6



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	49.4	44.6	42.4
	量と測定	42.7	41.8	41.7
	図形	50.2	46.8	45.6
	数量関係	43.3	40.6	43.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	38.9	34.9	35.3
	数量や図形についての技能	62.8	59.8	58.7
	数量や図形についての知識・理解	81.6	79.1	74.9



★算数に関する質問紙調査の状況

○算数の授業が好きである児童が77.2%, 算数の勉強が大切であると答えた児童が94.9%と平均を上回っている。また、新しい問題に出会ったとき解いてみたいと答える児童が82.2%, 問題解決が困難なときも諦めずに頑張ると答えた児童が85.6%と意欲的に挑戦していることが分かる。
●平均を下回った項目は「調査問題の解答時間は十分でしたか。」で、77.1%となっている。市の平均を9.9%下回った。文章問題にも慣れるよう指導していきたい。

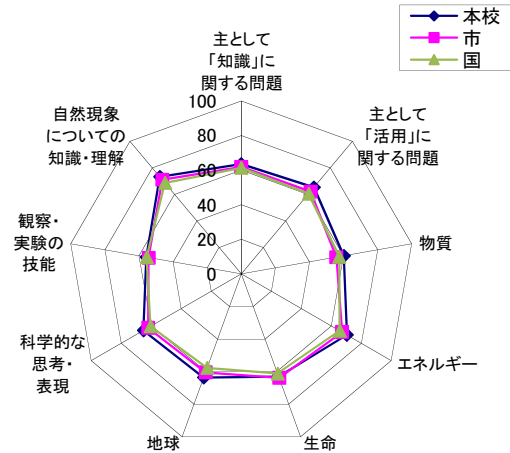
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○A・Bとも本校の平均正答率は、市・国の平均正答率を上回っている。 ●小数の減法における答えの見積りに課題がある。また、末尾の位のそろっていない小数の減法にも課題がある。 ●除数が整数である場合の分数の除法に課題がある。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・答えの見積もり方を形式的に覚えるのではなく、場面や状況に応じて見積もり方を選択できるよう話し合う場面を設定する。末尾のそろっていない小数の減法については、誤った計算方法を提示して、誤りを指摘させたり、正しい計算の仕方を話し合わせたりして正答が導けるようにする。 ・分数の除法については、分数の計算の意味を復習して、計算の仕方について話し合う場を設けるようにする。
量と測定	○Bの本校の平均正答率は、市・国の平均正答率を上回っている。 ●Aの平均正答率は、国の平均正答率を下回っている。特に日常生活の中で必要とされる時刻を求める問題や180°よりも大きい角の大きさを求める問題が課題である。 ●単位量あたりの大きさを用いて、目的に応じた買物の仕方を選択し、代金を求める問題に課題が見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・時刻の問題については、線分図などを用いて、模型の時計盤と対応させて、時間が経過していく様子を視覚的に捉えることができるようにする。また角の問題では、180°よりも大きい角を求めるために補角を用いた測定方法を扱うようにする。 ・単位量の問題では単位量あたりの大きさを考慮することで能率的な処理が可能になる題材を用いて、様々な考え方で問題を解決できる活動を設定するようにする。
図形	○A・Bとも本校の平均正答率は、市・国の平均正答率を上回っている。 ●示された二組の道のりが等しくなる根拠として、図形を見出し、その図形の性質を言葉と記号を用いて記述できるかどうかをためす応用問題に課題が見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・地図を使って、日常の事象の中から図形を見出し、その図形を構成する辺の長さや角の大きさに着目して地図の情報と図形の性質を関連付けられるようにする。さらに図形の約束や性質を基に日常の事象を解決する活動を設定して、日常生活と図形の関連について関心を高められるようにする。
数量関係	○Bの本校の平均正答率は、市・国の平均正答率を上回っている。 ●Aの平均正答率は、国の平均正答率を下回っている。特に式に表現された数量の関係を図と関連付けて答える問題に課題が見られた。 ●Bでは示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求める問題に課題が見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・数量の関係を図や式で表したり、式を読み取ったりして、式のよさが分かるようにするとともに、式を適切に用いることができるようにする。 ・基準量を求める問題では、図や数直線を用いて数量の関係を整理して把握させた上で、基準量を求めることができるようにする。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
枠組み	主として「知識」に関する問題	63.5	61.9	61.3
	主として「活用」に関する問題	65.2	62.2	60.5
区分等	物質	60.1	55.7	57.4
	エネルギー	70.4	67.2	65.6
	生命	63.1	63.8	61.2
	地球	63.6	60.5	57.8
観点	自然現象への関心・意欲・態度			
	科学的な思考・表現	65.2	62.2	60.5
	観察・実験の技能	55.7	54.4	55.5
	自然現象についての知識・理解	73.3	71.1	68.6



★理科に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○理科の授業が好きである児童が81.4%、理科の勉強は大切だと答えた児童は86.5%と示している。理科の授業の内容をよく理解している児童は89.8%と高い傾向を示している。これらのことから、理科の授業を大切だと考え意欲的に取り組む児童が多いことが分かる。

○将来、理科や科学技術に関係する職業に付きたいと回答した児童の数が平均よりも上回る数値を示した。このことから、理科の授業を大切と捉え、先を見通して主体的に学習に取り組む児童が多いと考察する。

●観察や実験を行うことが好きと回答した児童の数が平均よりも下回る数値を示した。このことから、観察や実験を友達とともに取り組む

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質	○本校の平均正答率は、市・国の平均正答率を上回っている。 ●示された実験器具の適切な扱い方を答える問題に課題がある。 ●析出砂糖の量について分析するために、グラフを基に考察し、その内容を記述する問題では、市・国の平均を上回っているが、正答率が38.5%と低い ため課題である。	・実験器具などの名称を正しく理解させるには、目的に応じて必要な器具を主体的に選択し準備する活動を通して、器具と名称、使う目的を一致させて捉えさせていく。 ・扱い方については、器具の操作手順の理解だけでなく、操作の意味まで捉えさせるようにする。
エネルギー	○本校の平均正答率は、市・国の平均正答率を上回っている。 ●電磁石と磁石の同極が退け合うようにするために極の組み合わせを答える問題の正答率が、52.1%と低い傾向にあり、課題がある。	・電磁石と磁石の同極が退け合う性質を振り子が左右に等しく振れる仕組みに適用してものづくりをするには、まずは、電磁石や磁石の同極で退け合う性質や異極で引き合う性質などを確認する時間を十分確保するようにする。
生命	○本校の平均正答率は、市・国の平均正答率を上回っている。 ●顕微鏡の適切な操作方法について答える問題の正答率が、35.9%と低く、全国平均を下回っており、操作技能に関する知識の定着に課題がある。	・操作によって、どのように見え方が変わってくるのか大型モニターで捉え、「暗いときには鏡の向きを調節する」「焦点が合っていないときには調節ねじを回す」「観察対象が小さい場合には対物レンズを変える」など、目的に応じて操作方法を確認するなどの学習活動を展開していく必要がある。
地球	○本校の平均正答率は、市・国の平均正答率を上回っている。 ●方位についての情報から、観察している方位を選ぶ問題の正答率が42.7%と低いことから、方位を判断するために、観察した事実と関連付けながら情報を考察して分析することに課題がある。	・月や星の観察は夜間に家庭で行うことが多いことを踏まえ、観察前の授業において方位磁針の使い方や教室での方位を確認した上で、家庭でも方位を正確に捉えた月や星の観察ができるようにする。 ・屋上やグラウンドで方位を確認したり、登校時に自宅の玄関を出たときの太陽の向きで東の方位を捉えたりする活動を取り入れる。

宇都宮市立豊郷中央小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○国語・算数は好きかの肯定割合は、どちらも約70%であるが、将来役に立つと思うかについてはどちらも90%を超えている。国語・算数にやや苦手意識はあるものの学習する必要性を感じている児童が多いと考えられる。

○毎日朝食を食べていると答えた児童の割合が98%、毎日同じくらいの時間に寝たり起きたりしていると答えた児童の割合が約90%と、全体的に規則正しい生活をしていると考えられる。

○ものごとを最後までやり遂げた達成感を味わったことがある児童の割合が98%、失敗を恐れないで挑戦している児童の割合が83%であり、何事にも意欲的に取り組む児童が多いと言える。

○学校の決まりを守っているかの肯定割合は89%、いじめは絶対だめであるの肯定割合は98%であり、規範意識が身についていると考えられる。

●友達の前で自分の意見や考えなどを発表することは得意かの肯定割合は47%と低い。人前での発表に苦手意識を持っている児童が多いということが言える。学校生活のいろいろな場面で、これからも児童に発表の場を与えていくなど、継続的に指導していくことが必要である。

●平日学校の授業以外でどのくらい読書をするかの質問に対し、30分未満の割合が67%、また、学校図書館や地域の図書館を利用しているかの質問に対しても、年に数回、ほとんど利用していないを合わせた割合が64%となり、読書の習慣があまり身につけていないと言える。これからも読書の必要性を話したり、保護者と協力したりしながら、読書の習慣が身につくように指導していくことが大切である。